

技術科学習指導案

実施学級 第 1 学年 3 組 39 名
実施日時 令和 7 年 11 月 18 日 6 時限
実施場所 木工室
指導者 藤井 宏矢

1 単元名 木材加工の基礎技術を身につけよう

2 単元目標

生徒が木材の性質や加工方法について理解を深め、のこぎりやかんななどの道具を安全に使用しながら、目的に応じた加工を行う力を育成する。加工の過程で、材料の特性や繊維方向を考慮し、切削面の状態を観察・改善することで、よりよい作品づくりに向けた思考力・判断力・表現力を養う。また、仲間と協力しながら主体的に作業に取り組む姿勢を育て、ものづくりの楽しさや達成感を味わうことを通して、技術への関心を高める。

3 評価の観点

観点	評価観点別目標
知識・技能	木材の性質や加工方法（のこぎり・かんな・接合など）を理解し、適切な道具を安全に使って加工できる。
思考・判断・表現	加工の目的や材料の特性を踏まえて、加工方法を選択・工夫し、作品の完成に向けて改善を重ねることができる。
主体的に学習に取り組む態度	加工活動に意欲的に取り組み、仲間と協力しながら安全に作業を進めようとする姿勢が見られる。

4 単元全体の指導計画（全 15 時間）

第一次	①/15	授業名	木材加工とは
		ねらい	木材の特徴や加工の目的を理解する
		「深い学び」への指導ポイント	加工の目的を考え、生活との関わりを意識する
第二次	②/15	授業名	材料と道具の準備
		学ねらい	材料の選び方と道具の安全な使い方を理解する
		「深い学び」への指導ポイント	安全な作業のための準備と意識づけに加え、さしがねを用いたけがき線の引き方や正確な加工の重要性を理解する
第三次	③④/15	授業名	のこぎりによる切断加工
		ねらい	のこぎりの基本的な使い方を習得し、木材を切断する
		「深い学び」への指導ポイント	道具の扱い方を体験的に学び、加工の精度と安全性を意識する
第四次	⑤⑥⑦⑧⑨/15	授業名	切削加工
		ねらい	木工やすりやかんなの使い方を理解し、安全に使用できるようになる
		「深い学び」への指導ポイント	観察と改善を通して加工技術を高める

第五次	⑩⑪⑫⑬ ⑭⑮/15	授業名	接合と組み立て、仕上げ作業
		ねらい	加工した部品を接合し、作品の完成に向けて仕上げる
		「深い学び」への 指導ポイント	組み立ての工夫と安全性を考え、見た目と手触りの工夫を考えながら作品の完成に向けた達成感を味わう

5. 本時（第四次 4時間目）

(1) 本時の指導目標（かんなによる切削作業①）

観点	目標	手立て
知識及び技能	かんなの構造や使い方、木材の繊維方向と切削の関係を理解し、安全に作業できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師による作業中の安全確認（持ち方・姿勢） ・繊維方向に沿った切削ができていないかを観察
思考力、判断力、表現力等	切削面の状態を観察し、加工の工夫点を見つけて改善につなげることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで切削面を撮影し、「改善点」「工夫したこと」など記入
主体的に学習に取り組む態度	作業に意欲的に取り組み、仲間と協力しながら安全に作業を進めようとする姿勢が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 作業中の様子を観察（声かけ・協力の様子）

(2) 教材

・かんな ・木材 ・タブレット端末 ・モニター ・Teams（資料共有・振り返り）

(3) 学習指導場面の工夫

学習形態	場面・工夫 (個別最適な学び・協働的な学びへの明示的配慮を指導案へ具体的反映)
一斉指導	<ul style="list-style-type: none"> ・かんなの構造や使い方、安全な持ち方・姿勢を実演しながら説明する。 ・木材の繊維方向の見分け方を全体で確認し、注意点を共有する。 ・作業前に全体で安全確認と作業手順を確認することで、安心して活動に入れるようにする。
個別最適な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分のペースで切削作業を行い、切削面の状態をタブレットで記録する。 ・自分の加工の様子を振り返り、改善点をメモする活動を通して、個々の課題に気づかせる。 ・教師が巡回し、個別に助言や支援を行うことで、技術の向上を促す。
協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで切削面の違いや工夫点を共有し、互いの加工方法を比較・検討する。 ・安全に作業を進めるために、道具の受け渡しや作業スペースの確保を協力して行う。 ・振り返り活動で、仲間の意見を取り入れながら次の加工への改善案を考える。

(4) 補足資料

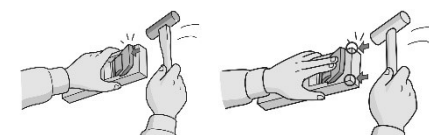
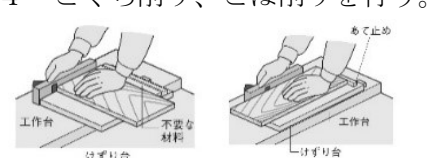
① [作業説明動画 \(Excel\)](#)

② [共有ファイル \(PowerPoint\)](#)

③ [感想 \(Forms\)](#)



(5) 学習の展開

資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（学習活動の場面）				
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が木材の繊維方向を意識しながら、かんなを使って丁寧に切削を行っている。切削面の状態を自分で確認し、「もっと繊維に沿って削った方がきれいになる」と気づき、自ら加工方法を工夫して改善している。 タブレット端末で切削面を撮影し、記録をもとに「この部分は逆目になってしまった」などと振り返り、次の加工に向けて改善点を言語化している。 グループで互いの加工面を見比べながら、「この削り方だと表面が滑らかになるね」などと仲間の工夫を認め合い、取り入れようとする姿勢が見られる。 作業中、道具の扱いに注意を払いながら、安全に配慮しつつ仲間と声をかけ合って作業を進める姿が見られる。 				
	学習者の活動	「深い学び」につながる学習形態における支援	学習形態	GIGA 端末・クラウド環境の活用
導入 10分	1 前時までの学習内容を振り返る。 2 本時の学習課題を知る かんなの構造と使い方の説明	<ul style="list-style-type: none"> 前回まで使用していた木工やすりを例に切削作業についてイメージを持たせる 木工やすりとかんななどでは同じ切削でも異なるということを気付かせる 視覚的に提示し、理解を深める 	一斉	かんなの構造を拡大提示
かんناによる切削加工をしてみよう				
展開 30分	3 かんなの刃(かんな身)の調整方法について知る。  4 こぐち削り、こぼ削りを行う。  5 より切削しやすくなるよう、刃を調節し・切削を繰り返す。	<ul style="list-style-type: none"> かんな（実物）に触れさせ、実感を持たせる。 ケガなく安全に作業できるよう注意深く意識づける。 姿勢や力加減を個別に助言し、技能向上を支援する。 適切に作業できていない場合は適宜アドバイスを促す 	個別	タブレットで写真を撮り、状態を記録。改善点をメモする 補足資料①
まとめ 10分	6 切削面の観察と振り返り 撮影した画像を見ながら、切削の工夫点や改善点を話し合う 7 次時予告・片付け	<ul style="list-style-type: none"> Before/After を比較し、改善点を言語化させる 他者の工夫を取り入れるよう促し、協働的な学びを促進する 	協働	タブレットで画像共有・コメント入力 補足資料② 補足資料③

